

病理専門医制度運営委員会だより (第 3 号)

病理専門医資格更新に関する重要なお知らせ：

前回の「運営委員会だより」でも記載しましたが、病理専門医の皆様には、本年 4 月初旬に郵送で病理専門医資格更新基準の変更についての案内が送られておりますので、熟読の上、内容のご理解をいただきたいと思っております。今回皆様にお送りしました文書一式は、確定しました新しい病理専門医資格更新基準であり、本年度よりこの基準で資格更新の審査を行うこととなります。特に、本年度(2015 年秋)に更新を迎える先生方は、新しい基準の内容をよくご理解の上で更新の手続きをしていただきたいと思っております。

また、事情によりこれまで病理専門医資格更新を保留されている先生方は、「一度病理学会専門医に復帰していただき、次回更新時より専門医機構での専門医資格更新を目指していただく」ことになりました(専門医機構からの回答です)。現時点で更新保留の専門医の先生方は、まずはこれまでの基準による「病理学会専門医」に復帰してください。なお、学会専門医の更新をされない場合は、今回は「更新」ではなく、改めて機構の専門医資格取得(受験)することになると予想されます。また更新保留者に対するこの措置はおそらく 2020 年度には終了するものと予想されますので、対象となる先生方はくれぐれもご理解いただきたいと思っております。

専門医更新に必要な「専門医共通講習」は 5 年間で 5 単位以上が要求されます(1 時間の講習で 1 単位)。このうち「医療安全」「医療倫理」「医療感染」の 3 つは必修です。専門医共通講習については、病理学会より認定されている施設(認定施設と登録施設、今後は基幹施設と連携施設)で行われたものでも代用可能です。この場合、施設長が発行した受講証が必要となりますので、各施設の責任者にご確認ください。

病理専門医研修施設と研修プログラムについて：

前回の「運営委員会だより」でも記載しましたが、現状の病理学会の研修施設(認定施設 A, B, S と登録施設)は、今後基幹施設と連携施設に変更されることになりました。新しいプログラムでは基幹施設を中心として、原則的に連携施設との間をローテートする方針が示されています。従いまして、今後は各地域で基幹施設(大学病院と一部の分院及び一部の現認定施設)と連携施設による専門研修病院群を構築していただくこととなります。詳細については、本稿の著者であり、専門医機構の基本領域専門医委員会と基本領域研修委員会の両方の委員である北川、清水、村田の 3 名で、6 月から 7 月にかけて各支部で説明会を開催させていただきました。これからは基幹施設を中心としたプログラム作成が急がれます。プログラムの例として、都市型大学のもの(東京医科歯科大学例)と地方型のもの

(三重大学例)を準備いたしております。これらのご参考の上、各研修病院群で話し合いをされ、一人でも多くの病理専攻医の受入れができるように、また病理希望者が専攻医になれないような事態を防ぐために、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

今後の日程について：

・平成 27 年度病理専門医試験は、平成 27 年 8 月 1 日、2 日に東邦大学で行われます。

・平成 27 年度細胞診講習会は、平成 28 年 2 月 13 日、14 日に大阪市立大学で開催されます。

(文責：黒田誠・北川昌伸・清水道生・村田哲也)

==特集===== 私とスポーツ ～No Football No Life～

北海道消化器科病院 高橋 利幸

生来、人並み以上にうまくいったスポーツはない。ただし、観ること、応援することは人並み以上で、どうも入れ込みすぎるきらいがある。

現在の私の生活は地元札幌のサッカーチームであるコンサドーレ札幌を中心に回っている。もとはプロ野球、それも北海道で唯一テレビ中継されていた読売巨人軍のファンであったが、ホームチームのない北海道で巨人軍を応援することには内心忸怩たる思いもあった。1996 年、コンサドーレ札幌が設立され、地元で初めてプロ・スポーツが誕生した。40 歳を手前によく胸を張って応援できるチームができたのである。子供がサッカーを始めたこともあり、興味は野球からサッカーへとシフト。シーズン中の週末はホーム・ゲームはほぼ全試合スタジアムで応援、アウェーはテレビ応援が私の基本スタイルだ。

プロ・サッカーチームの強さはクラブの資金力と比例する。北海道には一社で毎年 6 億、7 億といった強化資金を提供できる大企業はないため、本州の大都市圏チームに比べて資金は潤沢ではない。それどころか札幌は何度か存続の危機にもさらされてきた。そんな実情を見るにつけ、クラブのために何かをせずにはいられない気持ちになったのは自然なことだった。それを形にしたのがサポーターの医者仲間とともに 2010 年に立ち上げた「コンサドーレ札幌を支援する北海道医療従事者の会」である。医師は一口一万円、それ以外の医療関係者は一口千円で年会費として支援金を募り、チーム強化に役立てたいというのが設立コンセプトであった。当初の目標は年間 100 万円。クラブが必要とする億単位の金額には到底及ばないが「たとえ 100 万でもないよりはあったほうがいい」が合言葉だった。幸い、初年度から目標を上回る支援金が集まり、クラブ公式スポンサーとしてスタート。Jリーグで他に類を見ない、企業単位

ではなく同業種間で横に繋がった団体でのサポートということ
で少しく注目もされることになり、今年で6年目になる。昨年
からはホーム・ゲームの会場医（観客の急病やけがに対応する）
の派遣を当会が一手に請け負うことになり、クラブとの親密度
はさらに増した。

札幌に限らずサッカーのサポーターはとにかく熱い。それは
フットボールというスポーツの魅力であり、自分たちがチーム
作りに関わっているという充実感でもある。私も含めてサポー
ターは「クラブが我々に何をしてくれるかではなく、クラブの
ために自分たちは何ができるか」と考えるのが基本姿勢。負け
試合のゴール裏のサポーターたちは、自分たちの気持ちが入り
なかつたから勝てなかつたと本気で考えているし、週末のサッ
カーおやじたちはフットボールに人生を、哲学をみるのである。
気力、体力が続く限りコンサドーレ愛を貫き、コンサドーレの
J1優勝を見て死にたいというのが目下の私の夢である。

スポーツと私

LSI メディエンス 病理・細胞診センター 前田昭太郎

小学生時代に内臓疾患のため入院生活を余儀なくされ、体育
の授業は見学で、スポーツ大好きな私にとってはとても辛く、
悔しい思いであった。その反動もあり、中学に入学するや、周
囲の反対を押し切り、陸上競技部に入部し、以後高校卒業まで
6年間、練習日を一日たりとも休んだことはなく、部活に打ち
込んだ。県大会（岡山）で走り幅跳びに優勝し、体育系大学に
推薦されたが、猛練習の結果のたまたまの優勝であり、推薦さ
れるほどの実力がないことを理解していた私は、小学生時代の
療養中に思いを馳せた医学の道を選んだ。

幸か不幸か、信州大学医学部には当時陸上競技部がなく、部
員が楽しそうに練習している軟式テニス部に入部した。私がレ
ギュラー選手になった当時は東日本医科学学生総合体育大会で
一次リーグ戦を突破するのが大変であった。しかし霜のためコ
ートが使えない冬季は体育館にテープを張るなど工夫して部員
一同猛練習した。その結果、私が6学年のときには東日本医科学
生総合体育大会の団体戦で準優勝となり、優勝決定戦終了時に
胴上げし、喜びを分かち合った。優勝決勝戦の結果を知らない
観客はその光景をみて、てっきり信州大学が優勝したと思っ
たことである。しかし全員が力を合わせて勝ち取った準優勝
であり、優勝でなくても最高の喜びであり、お互いの健闘を讃
えあった当時の感激は今でも忘れられない。

医師になってからは、幸運にも軟式テニス部で知り合った妻、
長男、次男と一緒にテニススクールに通い、今では長男、次男
とペアーを組み、全日本医師テニス大会（硬式、軟式）をはじ
め、複数のテニス大会に毎年参加している（写真1, 2）。その
長男は意中の女性とペアーを組んでテニス大会に出場し、試合
終了時にテニスコートでプロポーズし、その会話を耳にした相



写真1 全日本医師テニス大会：
軟式（2013：沖縄）
前田・前田組 個人戦一般：優勝



写真2 全日本医師テニス大会：
硬式（2015：神奈川）
前田・前田組 個人戦壮年：優勝

手チームから祝福されたというエピソードを結婚式ではじめて聞いた
が、やはりスポーツは素晴らしい。その長男の長女（私の初孫）はテニス
大好き（写真3）、末はウインブルドンか、オリンピックか???

さて、日本医科大学を退職し、LSI メディエンス（旧三菱化学メ
ディエンス）に就職して5年になるが、同検査センターでは年間約60万
件の症例（細胞診、組織診）を扱っており、毎日約2,000件の鏡
検結果を臨床に報告している。病院・大学時代にはとても想像
し得なかつた忙しさ、ストレスの毎日ですが、週に1~2回白
球を追ってテニスコートを走り回るのは最高の気分転換に
なっている。

軟式テニス、硬式テニスにはそれぞれ特徴がある。それぞれ
の特徴を生かして自分にあったテニススタイルを築きあげるべ
く努力することは現在の自分の生きがいの一つでもある。この
軟式テニス、硬式テニスの関係は、それぞれ特徴を有する細胞
診、組織診の関係と相通ずるものがあり、興味深い。これから
定年まで数年間細胞診、組織診に携わり、定年後は毎日大好き
なテニス三昧の日々を送ることができると思うと、今からその
日が楽しみでならない。——スポーツさえ許されず、多くの
思いを日本の地に残し、戦場の地に消えていった戦時中の日本
の若者達の無念な気持ちを思うにつけ、スポーツをいつでも好
きなだけ楽しめる今の日本はなんと平和で素晴らしい国かと思
う。この平和が孫の代までも、願わくば未来永劫続く日本であ
って欲しいとつくづく思うこの頃である。

釣りはスポーツ？

社会医療法人厚生会木沢記念病院 病理診断センター
山田 鉄也

ルアーやフライなどを用いて釣りをすることを狭義のスポ
ーツフィッシング、ゲームフィッシングといいます（広義には生
業としての漁獲を目的としない餌釣りも含む）。ルアーフィッ
シングの対象魚は色々ありますが、私はトラウト（サケ・マス



写真3
遥香1歳：テニス大好き



類)のルアーフィッシングにはまっています。私のホームリバー(いつも釣りをする長良川や高原川)ではアマゴ(降海型をサツキマス)、イワナ、ヤマメ(降海型をサクラマス)、ニジマスなどが釣れます。

トラウトは脂鱗という第6の鱗を有する魚種で、体側のパーマークや斑点(朱斑や白斑)が美しく、多くのトラウトティストたちを魅了します。ルアー(原義は魅惑、誘惑)とは魚に似せた疑似餌のことで、ナチュラル・カラーのものやピンク色などのビビッド・カラーのものがあ、その色調や流線型のフォルムがとても美しく、魚を誘うだけではなく、私も魅せられてしまいます。

高原川本流の釣りでは山道に車を止め置き、季節、時間帯、気温、水温、水量に応じたルアーを選び、ルアーボックスに詰め込みます。ウエーダーを履き、ルアーボックス、デジタルカメラ、ペットボトル飲料を押し込んだリュックサックとランディングネットを背負って出発します。帽子と偏光グラスも欠かせません。釣り人が通った踏み跡を頼りに、50~60mほど急峻な谷を下って河原に出ます。時には流れのある川の中を歩き、大きな岩を乗り越えたりしながら、4~5kmを数時間釣り歩きます。釣り終えて急斜面を登るときには息は切れ切れ、足はガクガクになっています。何度もロッドを振ったり、強い流れの中で岩につかまって体を支えたりして、腕もパンパンになっています。

荒瀬で40~50cmを超えるような大イワナがヒットすると、まさにこの釣りは格闘技になります。写真の大イワナがヒットした時は激流の中の沈み岩にルアーが引っ掛かってしまったかなと思った直後、リールのドラッグが大きな唸り声を上げ、ラインが一気に引き出されてしまいました。ラインは4lb(4ポンド; 1.8kgの荷重で切れてしまう強度)、ラインが岩に摺れたら、一発で切れてしまいます。ラインと沈み岩との擦れを避けるため、ロッドを高く保持し、少しずつリールを巻いて手繰り寄せるのですが、何度もラインが引き出されてしまいました。ラインが引き出されることとロッドのアクション(曲がり)によって細いラインでも大物を釣り上げることができるのです。激流の中で魚を寄せることは不可能で、流水の中で足を踏ん張り、また岩の上で体のバランスを保ちながら、100mほど下った瀬落ち(深く流れが緩やかになったところ)まで魚を誘導し、やっとネットインできました。その間の時間は10分程度であったと思いますが、感覚的には30分にも1時間にも感じました。

これまでのビッグ・ワンはアマゴ37.0cm、サツキマス44.0cm、ヤマメ40.5cm、イワナ51.0cm(写真)、ニジマス62.0cmです。自己記録の更新を目指して、今年も川を目指します。

病理とテニス

石切生喜病院 病理診断科 若狭 研一

テニスを始めたのは平成2年に大阪市立大学医学部附属病院病理部に赴任してしばらくしてからなので、もう20年以上になる。大阪大学医学部附属病院病理部の頃、北村旦先生が時々病理部に顔をだした時に「昨夜のボルグ対マッケンローはすごかったな。」と言いながら、くつろいでおられたのを思い出す。この頃は病理部やPQRS(肝切除例の外科、放射線科、病理部合同の症例検討会)のコンバがあったが、さんざんな成績であった。ゴルフは足が左右対称でないと上達しないらしい。軸足になる左足首を以前にスキーで痛めたことがあり、足だけの問題ではないだろうが、上達はあきらめた。テニスでも左は軸足だが、なんとかごまかせるので、続けている。使用ラケットは2014年の錦織圭モデルである。結構ミーハーなのである。テニスを始めたときは、ラケットは400g超の重量で一時間も振り回していると腕が痛くなってきた。今は軽くて、よく飛ぶラケットが出てきている。一時は200g位のを使っていたこともあるが、現在は300g位で落ち着いている。テニスによる怪我といえば、肉離れを2,3回経験した。準備体操をあまりしなかった時に決まって起こしてしまう。最近では入念に準備体操をするようにしている。これからはだんだん動ける範囲が少なくなっていくと思うが、コーチからはその分回転をかけるように言われている。これがなかなか難しい。技術的にむずかしいということもあるが、性格的にも回転をかけるより、強く打とうとしてしまう。

趣味は一生懸命、仕事は楽しんでするものだというのを聞いたことがあるが、病理の仕事も趣味のようなものである。顕微鏡を見るのは学生のときからのあこがれでもあった。いまでも一日の検体数があまりに少ないと物足りないこともある。

ともあれ、日頃病院の中だけで仕事をしていると、外で思いっきり身体を動かすのは爽快でいい。スキーも時々子供を連れて行くこともあるが、冬だけで、それも年に二回行けるかどうかである。それに子供が保育所の頃から、行く度に託児所よろしくスキースクールに入れていると、この頃は子供の方が、はるかに上手になってしまっ、一緒に行ってくれるかどうかもわからない。その点テニスは一年をとおして定期的にすることが可能である。同年代の方も結構多い。これからもずっと続けるつもりである。頭の体操である病理と身体の体操であるテニスとこれからも健康のためにも続けていきたい。その趣味の一つで食っていけるのだから、ありがたい話である。

ロードバイクと私

島根県立中央病院病理組織診断科 山本 智彦



私がロードバイクにハマり始めたのは6年前、その当時働いていた松江赤十字病院で救命救急科と産婦人科の先生に誘われたのがきっかけです。行きつけの自転車屋を紹介され、気が付けば20万円程度のエントリー

モデルを購入してしまっていました。当初は30~40km程度でへばっていたのですが続けているうちにどんどんと走れる距離が伸びていきました。今では毎週末100km程度走るのが日課になっており、時間があるときは200km以上走ります。年間走行距離は6,000~7,000km程度に及び、ここ数年は自家用車の走行距離を完全に越えてしまっています。

基本的に一人で走ることが多いのですが、今の職場である島根県立中央病院と、同じ出雲市内にある島根大学医学部付属病院のロードバイクを愛する医師（総合診療科、整形外科、皮膚科、産婦人科、形成外科、脳神経外科、循環器内科、リハビリテーション科、そして病理診断科）及び看護師の合計十数名でizumo medical cyclists (IMC) というグループをつくっており、天気の良い土曜日の早朝には都合のつくメンバーが集まって近場まで走りに行きます。朝6時集合で休憩をいれながらみんなでワイワイ楽しく40km程度走り、帰ってくるとだいたい8時くらい。それから各々が病棟の仕事に向かっていきます。朝の清々しい空気を胸いっぱい吸えることは勿論ですが、仕事以外で横のつながりが出来たことをとても有難く思っています。

また、休みの都合がつけば各地で開催されるロングライドイベントに参加します。今年出走したものとしては、びわ湖一周ロングライド（びわ湖周囲を一周する160km）、石見グランフォンド（中国山地の山々を走る200km）、tantan ロングライド・グランフォンド鬼コース（天橋立をスタート&ゴールとして丹後半島などの京都北部をめぐる190km）、鳥取サイクルマラソン・鉄人コース（大山の裾野と山岳地帯を回る170km）などです。秋には出雲路センチュリーライド（160km）、淡路島一周ロングライド（150km）、サザンセト・ロングライド in やまぐち（160km）への参加を予定しています。それらのイベントでは絶景のなか長距離を走ること以外に、各チェックポイントで振る舞われるその土地の名産品が楽しみだったりします。

普通の人にとって100km以上も自転車で走るとは狂気の沙汰に写るかもしれませんが私にとっては運動不足解消と非常によい気分転換になっています。平日の私は朝から晩まで顕微鏡にかぶり付き、運動といえば術中迅速時に切り出し室まで小走りする程度でしょうか。特に私の病院の病理検査室は手術室隣の窓の無い閉鎖空間。手術材料の受け渡しには都合が良いの

ですが季節感ゼロ。外の天気が晴れか雨かすらもわかりません（去年定年退職されたベテラン技師さんは空調のニオイで外の天気を察知しておられましたが、私にそんな特殊能力はありません…）。平日みることの出来ない太陽の光をロードバイクのおかげで休日は存分に浴びることができています。

近年、ロードバイクブームといわれており街中を走るロードディー達も市民権を得つつあります。しかし、その反面、今年6月から道路交通法が改正され、自転車乗りを見る世間の目はより厳しくなっています。乗り方によっては被害者にも加害者にも成り得る可能性を胸に、安全には気を付けながらこれからも楽しんで続けていければと思っています。

私とスポーツ

県立宮崎病院 病理診断科 島尾 義也

この原稿の依頼をいただいた5月末から6月初旬、世界のサッカー界に大きな事件が起こっています。FIFA 国際サッカー連盟の会長に1998年から17年間就任してきたブラッターの辞任です。サッカー日本代表では2018年開催予定のロシアワールドカップ予選メンバーが選出されました。日本代表メンバーは宇佐美や武藤など若い選手が選出され、若返りが図られています。しかし、病理の世界ではまだまだ若返りは難しいように思います。自分が大学を卒業して病理を選択した20年前と比べて、現在、医師不足が叫ばれ、医師の仕事も更に多様化し、細分化しています。そんな中、病理医を選択することは難しいかもしれません。

おそらく沢山の病理医の方々と同じように、今まで様々な場面で病理医になったキッカケを聞かれました。自分の場合、それは間違いなく学生時代に大学のサッカー部に所属していたことが大きな理由です。小学6年生の時に週刊少年ジャンプでキャプテン翼の連載がはじまり、サッカー選手にあこがれ、日本代表がワールドカップに出場することを願いながらテレビで応援。まだJリーグも始まっておらず、ピッチピッチのパンツとシャツの肩には横線の入った日本代表のユニフォームを着た木村和司や水沼、金田などを応援するもワールドカップ予選を通過できずにいた時代。自分は受験勉強のため、諦めていたサッカー部への入部を大学入学と同時に果たします。元々運動神経は良い方ではないので、選手としてはいま一つだったのですが、部活は楽しく、大学5年のときに先輩の部屋で、先輩や友人数人とテレビでみた1994年アメリカワールドカップ・アジア地区予選。あとわずかな時間で初のワールドカップ本戦に出場が確定するとあって部屋中が浮かれていた雰囲気の中、一瞬で予選敗退となり沈黙が続いたドーハの悲劇は忘れられない思い出です。学業の方も悲劇的で特に病理の成績が悪く、このままではまずいと当時、病理学講座にいたサッカー部の先輩N島先生に教わりにいったことがはじまりでした。大学卒業前にサッ

カー部の顧問だった先生からも病理を勧められ、病理医になる道を選びました。病理の大学院生となった1996年には、最近バラエティー番組でよく見かける前園真聖が肩に炎のマークが入ったユニフォームで活躍し、アトランタ五輪でブラジル代表を破る“マイアミの奇跡”を、翌1997年にはフランスワールドカップ最終予選突破そしてワールドカップ本戦初出場と日本サッカー界は盛り上がりを見せます。自分も教授や諸先輩方の指導や叱咤激励を受けながら、奇跡的に大学院を無事卒業し、今まで病理を続けることができました。

現在、数が少なくほとんどの地域で不足している病理医なのですが、実は宮崎大学、それもサッカー部の先輩が沢山、病理に所属もしくは携わっておられます。S宮教授、N島教授、M山先生、M塚先生、H岡先生。どの先生方も優秀でやさしい先輩です。残念ながら宮崎大学サッカー部の後輩には病理を選択してくれる先生はまだいません。早く病理医を目指してくれる後輩が出てくることを願いながら、まだ勉強や指導力のたりない自分の修業を重ねていかないと考えています。

==私の恩師=====

私の師匠

島根大学医学部器官病理学講座 荒木 亜寿香

人との出会いが、人生を変えるとは考えたことがあったのだろうか。

その人、T女史と出会ったのは大学4年生の病理学の講義の時であったが、病理学の講義でのT女史の印象は驚くほど記憶に残っていない。私の大学では、臨床実習が始まった後の5年生半ばにCPPCという実習がある。これは、学生が臨床班・薬理班・病理班の3班に分かれて、1つの剖検症例のまとめを臨床医に向けて発表し協議するのである。私は病理班を担当することになり、その症例の執刀をされ、私達病理班の指導をされたのがT女史であった。T女史から与えられた資料は、主治医が作成した剖検申込書と病理解剖の肉眼所見のまとめ、そして組織標本の3点のみであった。ここから私達学生はそれまでの知識を最大限活用して、患者の病態を解明し、臨床医の疑問に答えなければならなかった。臨床実習が終わった夕方から夜間かけて病理班のメンバーで集まり、症例の検討を重ねた。病理学の講義から1年近く時間が経過していたこともあり、病理学用語は忘却の彼方になり、肉眼所見さえも理解することが大変だった。そんな私たちをT女史は厳しく、時に優しく指導して下さった。臨床医が脳梗塞と転移性腫瘍と診断していたこの症例の主病変が、全身性播種性結核症だと病理組織標本にて明らかになった時、私は病理解剖の偉大さを感じた。CPPCの発表前夜の予行練習が深夜に及ぶことが、当時の恒例行事だった(実際は担当教官によるのだが)。例外に洩れず深夜入りした私達を、T女史はコンビニエンスストアの肉まんを勧めてくれた。そして私はT女史にこう訪ねた。「卒業後、病理

医になる道がありますか?」T女史からの回答は端的な一言、「病院病理部に行けば良いわよ」であった。病理部の存在や病理医の存在そのものを全く知らなかった私には、目からウロコの一言であった。そしてその言葉に従った結果が、現在の私である。病理部に入ってからもT女史から仕事の仕方を学び、病理解剖の手ほどきを受けた。お互い今は離れた病院で勤務しているが、学会で出会った際には楽しく語り合うことのできる関係である。

あの時、T女史とあの症例に出会っていなければ、私は別の臨床医の道を歩んでいたに違いない。病理解剖の偉大さをあの時ほど感じさせてくれる症例に遭遇することは、病理医として仕事を始めて以来ほとんどない。それでもこの世界に導いてくださったT女史と出会えたことに感謝し続けている。

==支部報告=====

-- 東北支部 -----

東北支部編集委員 長谷川 剛

日本病理学会東北支部の夏のイベントは下記が予定されており、それぞれ開催に向けて準備中である。

1) 第81回日本病理学会東北・新潟支部学術集会

日時:平成27年7月4-5日(土、日)

会場:弘前大学医学部基礎大講堂

会長:弘前大学大学院 医学研究科 病理生命科学講座

鬼島 宏

2) 第8回病理夏の学校

日時:平成27年8月29-30日(土、日)

会場:山形市蔵王温泉ホテルルーセントタカミヤ

主催:日本病理学会東北支部(当番校:山形大学)

病理診断の重要性と病理専門医の魅力を伝えるための、学生および研修医向けのプログラムを用意しています。

-- 関東支部 -----

第67回日本病理学会関東支部学術集会報告

埼玉医科大学総合医療センター 病理部(病理診断科)

田丸 淳一

2015年6月20日、埼玉医科大学の川越クリニックにおいて第67回日本病理学会関東支部学術集会および平成27年度関東支部会総会が開催されました。今回、特別講演は「悪性リンパ腫の診断」について、T/NK細胞性リンパ腫、B細胞性リンパ腫、それぞれを竹内賢吾先生、中村直哉先生にお願いをして講演していただきました。一般演題は計6題(生検あるいは手術検体)の症例提示をしていただきました。当日は予想を大きく上回る212名の先生方の参加があり、活発な質疑、討議がなされました。多くの有意義な質問、コメントをいただきましたが、座長、演者、参加者の皆様のご尽力のおかげで、会は無事に、そして

大きな遅れもなく時間通りに終えることができました。ここに、改めて御礼申し上げます。また、総会後には北川昌伸先生に「新しい病理専門医更新基準について」と題し、病理学会特別報告をしていただき、今後の専門医制度についての学会の考え方を教えてくださいました。ありがとうございました。

当日のプログラムは以下の通りです。

【特別講演 ①】

講師：竹内賢吾（がん研究会がん研究所）

演題：T/NK 細胞性リンパ腫の病理診断

座長：上田善彦（獨協医科大学越谷病院病理診断科）

【一般演題 ①】

座長：塩沢英輔（昭和大学医学部 臨床病理診断学講座）

1. 結節性腸管リンパ濾胞症と考えた1例
中里宜正（獨協医科大学病理学 形態）
2. 高齢者に発症し、Langerhans cell histiocytosis と考えられた1例
本間まゆみ（昭和大学医学部 臨床病理診断学講座）ほか
3. 急速増大を示した篩骨洞癌の1例
佐藤由紀子（がん研究会がん研究所 病理部、がん研究会がん研究所 分子標的病理プロジェクト）ほか

【関東支部会総会】

【病理学会特別報告】

新しい病理専門医更新基準について

北川昌伸（東京医科歯科大学包括病理）

【特別講演 ②】

講師：中村直哉（東海大学医学部病理診断学）

演題：B 細胞性リンパ腫の病理診断：- DLBCL 免疫組織化学は必要か-

座長：佐々木 惇（埼玉医科大学病理学教室）

【一般演題 ②】

座長：柴原 純二（東京大学大学院医学系研究科病理学教室）

4. 乏突起膠腫の混在が疑われた膠芽腫の一例
井野元智恵（東海大学医学部 盤診療学系 病理診断学）ほか
5. 肝門脈硬化症（Hepatoportal sclerosis, HPS）をめぐる諸問題
中野雅行（湘南藤沢徳洲会病院 病理診断科）
6. ALK 融合遺伝子陽性の micropapillary predominant 肺腺癌の一例
後藤真輝（国立がん研究センター東病院 臨床腫瘍病理分野、病理診断科、国立がん研究センター東病院呼吸器外科）ほか

-- 中部支部 -----
中部支部編集委員 浦野 誠

2015 年中部支部「夏の学校」のお知らせ

日時：平成 27 年 8 月 29 日（土）、30 日（日）

場所：福井県若狭みかた きらら温泉 水月花

世話人：小林基弘先生（福井大学医学部腫瘍病理学）

内木宏延先生（福井大学医学部分子病理学）

次回学術集会

第 76 回日本病理学会中部支部交見会

平成 27 年 12 月 19 日（土）

会場：愛知学院大学

世話人：前田初彦先生（愛知学院大学口腔病理学）

東海病理医会 検討症例報告

第 309 回

（平成 27 年 2 月 14 日参加者 18 名 於：藤田保健衛生大学）
症例番号 / 病院名 / 病理医 / 年齢（歳代） / 性 / 臓器 / 臨床診断 / 病理組織学的診断

4781 / 光生会病院 / 黒田 誠 / 70 / 女 / 軟部 / 肘軟部腫瘍 / CD5 positive diffuse large B-cell lymphoma

4782 / 藤田保健衛生大学 / 黒田 誠 / 60 / 男 / 軟部 / 大腿軟部腫瘍 / Extraskelletal myxoid chondrosarcoma

4783 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 80 / 男 / 軟部 / 下腿軟部腫瘍 / Extraskelletal myxoid chondrosarcoma

4784 / トヨタ記念病院 / 北川 諭 / 50 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Mucinous borderline tumor with mature cystic teratoma

4785 / トヨタ記念病院 / 北川 諭 / 50 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Stromal carcinoma

4786 / 静岡赤十字病院 / 桐山論和 / 80 / 男 / 胃 / 胃癌 / Dedifferentiated adenocarcinoma

4787 / 藤田保健衛生大学 / 桐山論和 / 20 / 男 / 耳介 / 軟骨膜炎 / Relapsing polychondritis

4788 / 藤田保健衛生大学 / 櫻井映子 / 60 / 女 / 肺 / 転移性肺腫瘍 / Metastasis of chondroid meningioma

4789 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 40 / 女 / 脳 / 髄膜腫 / Chondroid meningioma

4790 / 藤田保健衛生大学 / 岡部麻子 / 10 / 女 / 小脳 / 小脳腫瘍 / Medulloblastoma with extensive nodularity

4791 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 40 / 女 / 腹腔内 / 腹腔内腫瘍 / Mature cystic teratoma

4792 / 諏訪中央病院 / 浅野功治 / 60 / 女 / 肋軟骨 / 前胸部腫瘍 / Tuberculosis

4793 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 60 / 男 / 膀胱 / 粘膜下腫瘍 / Urachal urothelial carcinoma

4794 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 60 / 男 / 歯肉 / 下顎歯肉腫瘍 / MTX related lymphoproliferative disorders

第 310 回

（平成 27 年 3 月 28 日参加者 15 名 於：藤田保健衛生大学）

4795 / 静岡赤十字病院 / 桐山論和 / 60 / 女 / 腎 / 腎癌 / Raputured renal cell carcinoma

4796 / 清水厚生病院 / 浦野 誠 / 80 / 女 / 結腸 / 結腸穿孔 / ARGAMATE related perforation

4797 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 60 / 男 / 縦隔 / 前縦隔腫瘍 / Micronodular thymoma with lymphoid stroma

4798 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 10 / 男 / 精巢 / 精巣腫瘍 / Paratesticular rhabdomyosarcoma

4799 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 50 / 女 / 腎 / 腎癌 / Collecting duct carcinoma

4800 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 60 / 女 / 胸腺 / 悪性リンパ腫 / MALT lymphoma

4801 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 70 / 男 / 骨髄 / 悪性リンパ腫 / Intravascular large B-cell lymphoma

4802 / 藤田保健衛生大学 / 黒田 誠 / 70 / 女 / 肝 / 肝機能障害 / Intravascular large B-cell lymphoma

4803 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 40 / 女 / 子宮 / 子宮頸癌 / Mucinous adenocarcinoma, signet-ring cell type

- 4804 / 諏訪中央病院 / 浅野功治 / 80 / 男 / 脾 / 悪性リンパ腫 / Splenic marginal zone lymphoma
- 4805 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 60 / 女 / 胆嚢 / 胆嚢腫瘍 / Tubular adenoma
- 4806 / 岐阜大学附属病院 / 酒々井夏子 / 60 / 女 / 上顎洞 / 上顎瘍 / Adenoid cystid carcinoma, high grade
- 4807 / 小牧市民病院 / 桑原恭子 / 70 / 男 / 睪 / IPMN / Intraductal papillary mucinous adenoma
- 4808 / 小牧市民病院 / 桑原恭子 / 60 / 男 / 睪 / IPMN / Intraductal papillary mucinous adenoma

第 311 回

(平成 27 年 4 月 18 日参加者 21 名 於：藤田保健衛生大学)

- 4809 / 静岡赤十字病院 / 浦野 誠 / 60 / 男 / 肺 / リンパ増殖性疾患 / IgG-related sclerosing disease
- 4810 / 藤田保健衛生大学病院 / 浦野 誠 / 70 / 女 / 卵巣 / 卵巣癌 / Transitional cell carcinoma arising from mature teratoma
- 4811 / 藤田保健衛生大学病院 / 浦野 誠 / 10 / 男 / 耳 / 下腺 / 耳下腺腫瘍 / Kimura's disease
- 4812 / 藤田保健衛生大学病院 / 浦野 誠 / 70 / 男 / 軟部 / 軟部腫瘍 / Proliferative fasciitis
- 4813 / 藤田保健衛生大学病院 / 桐山論和 / 70 / 男 / 軟部 / 胸壁軟部腫瘍 / Localized sarcomatoid mesothelioma
- 4814 / 藤田保健衛生大学病院 / 中川 満 / 60 / 女 / 腎 / 腎癌 / Invasive urothelial carcinoma
- 4815 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 70 / 女 / 腎 / 腎腫瘍 / Intramuscular leiomyoma
- 4816 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 60 / 男 / 皮下 / 皮下腫瘍 / Sebaceoma
- 4817 / 大同病院 / 小島伊織 / 70 / 男 / 肺 / 肺癌 / Adenosquamous cell carcinoma
- 4818 / 岐阜大学病院 / 小林一博 / 70 / 男 / 肺 / 肺癌 / Enteric adenocarcinoma
- 4819 / 岐阜大学病院 / 小林一博 / 50 / 女 / 甲状腺 / 乳頭癌 / Hyalinizing trabecular tumor

-- 近畿支部 -----

近畿支部編集委員 桑江 優子

I. 活動報告

第 69 回日本病理学会近畿支部学術集会在下記の内容で開催されました。

(検討症例, 画像等につきましては (<http://jspk.umin.jp/member/program68th.pdf>) にて閲覧可能です。パスワードの必要の方は事務局までお尋ね下さい)

日時：2015 年 5 月 30 日 (土)

場所：京都大学大学院医学研究科附属総合解剖センター

世話人：羽賀 博典先生 (京都大学)

モデレーター：中峯 寛和先生 (日本バプテスト病院)

テーマ：悪性リンパ腫

症例検討

座長：安原裕美子先生 (京都桂病院)

862 右心房破裂の 1 症例

前田亜里沙先生, 他 (尼崎医療生協病院, 他)

863 免疫形質の判定に苦慮した節性悪性リンパ腫の一例

岩元竜太先生, 他 (京都大学医学部附属病院 病理診断科)

864 胃・結腸生検の一例

上原慶一郎先生, 他 (神戸市立医療センター中央市民病院臨床病理科, 他) 特別講演

『B 細胞リンパ腫の成り立ちを考える』

錦織桃子先生 (京都大学 血液・腫瘍内科)

診断講習会

1. 皮膚のメトトレキセート関連リンパ増殖性疾患

藤本正数先生 (和歌山県立医科大学 人体病理学・病理診断科)

2. 悪性リンパ腫における遺伝子解析の意義

和田直樹先生 (大阪大学 病態病理学・病理部)

3. 悪性リンパ腫の診断に有用な新規抗体

伊藤智雄先生 (神戸大学 病理部・病理診断科)

4. リンパ腫診断一致率と認識論

中峯寛和先生 (日本バプテスト病院中央検査部)

II. 今後の活動予定

1. 学術集会

第 70 回学術集会 (2015 年 9 月 26 日)

開催場所：関西医科大学

テーマ：泌尿器疾患

第 71 回学術集会 (2015 年 12 月 12 日)

開催場所：大阪市立大学

テーマ：神経内分泌腫瘍

第 72 回学術集会 (2016 年 2 月 6 日)

開催場所：大阪市立大学

テーマ：肺疾患

2. 病理セミナー

『病理 夏の学校』(2015 年 8 月 22 日 12:00 受付開始)

— 病理って? 病理医って? 病理研究って? —

～病理に興味のある医学生・研修医のみなさんを歓迎します～

於：大阪大学吹田キャンパス 最先端医療イノベーションセンター 1F

3. 専門医研修病理領域プログラム整備基準説明会

7 月 18 日 (土) 午後 2 時～ (1 時間弱)

於：大阪大学医学部講義棟 A 講堂 (講義棟 1F)

-- 中国四国支部 -----

中国・四国支部編集委員 串田 吉生

A. 開催報告

1. 第 117 回学術集会

開催日：平成 27 年 6 月 27 日（土）

場所：鳥取大学医学部 臨床講義棟 3 階

世話人：鳥取大学医学部附属病院病理診断科 堀江 靖先生
一般演題 19 題が集まり、活発な討議が行われました。発表スライドや投票結果は<<http://csp.umin.ne.jp/ptindex.htm>> から見ることが出来ます。また、鳥取大学医学部脳病態医科学分野加藤信介先生による特別講演「病理と治療：神経系を中心として」も行われました。

一般演題

演題番号 / タイトル / 出題者（所属） / 出題者診断 / 最多投票診断

S2562 / 肺病変 / 吉谷信幸（徳島大学医学部医学科 5 年） / Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy / concord

S2563 / 鼻腔腫瘍 / 徳安祐輔（鳥取県立中央病院病理診断科） / Sinonasal low-grade adenocarcinoma, nonintestinal / concord

S2564 / 耳下腺腫瘍 / 天野知香（鳥根大学医学部病態病理学） / Lymphadenocarcinoma, nonsebaceous / Lymphoepithelial carcinoma

S2565 / 耳下腺腫瘍 / 小川郁子（広島大学病院口腔検査センター） / Epithelial-myoepithelial carcinoma / Pleomorphic adenoma

S2566 / 胃病変 / 頼田顕辞（高知赤十字病院病理診断部） / Russell body gastritis / MALT lymphoma

S2567 / 腭腫瘍 / 大沼秀行（鳥取県立中央病院病理組織診断科） / Solitary fibrous tumor / Hamartoma

S2568 / 腎盂腫瘍 / 倉岡和矢（呉医療センター・中国がんセンター病理診断科） / Sarcomatoid urothelial carcinoma with osteosarcomatous differentiation / invasive urothelial carcinoma

S2569 / 前立腺腫瘍 / 中山宏文（広島鉄道病院臨床検査室） / Leiomyosarcoma / concord

S2570 / 脳腫瘍 / AMATYA VISHWAJEET（広島大学大学院医歯薬保健学研究院病理学研究室） / Ganglioglioma / concord

S2571 / 左前頭葉病変 / 河原明奈（岡山大学医歯薬学総合研究科病理学、免疫） / Meningioma associated with meningioangiomatosis / concord

S2572 / 多発性脳病変 / 小林計太（鳥取市立病院病理診断科） / Cryptococcosis / concord

S2573 / 腎腫瘍 / 黒田直人（高知赤十字病院病理診断部） / Clear cell renal cell carcinoma with intratumoral fat component / Clear cell renal cell carcinoma

S2574 / 腎腫瘍 / 田端哲也（岡山大学医歯薬学総合研究科病理学、腫瘍） / Collecting duct carcinoma with focal sarcomatoid change / Collecting duct carcinoma

S2575 / 腎腫瘍 / 西田賢司（岡山大学医歯薬学総合研究科病理学、腫瘍） / Renal carcinomas associated with Xp11.2 translocations / TFE3 gene fusions / concord

S2576 / 左大腿軟部腫瘍 / 河田卓也（姫路赤十字病院病理診断科） / Alveolar soft part sarcoma / concord

S2577 / 左卵巣腫瘍 / タテサン（岡山大学医歯薬学総合研究科病理学、免疫） / Juvenile granulosa cell tumor with pseudopapillary pattern / Juvenile granulosa cell tumor

S2578 / 卵巣腫瘍 / 浦岡直礼（広島大学大学院医歯薬保健学研究院分子病理学） / Carcinosarcoma with neuroendocrine differentiation / Carcinosarcoma

S2579 / 右付属器腫瘍 / 沖田千佳（倉敷中央病院病理診断科） / Wofflian tumor, adnexal tumor of probable wolffian origin / Wofflian tumor

S2580 / 全身リンパ節腫大 / 桑本聡史（鳥取大学医学部附属病院病理部） / Castleman's disease, TAFRO syndrome / Castleman's disease

B. 開催予定

1. 第 118 回学術集会

開催日：平成 27 年 12 月 5 日（土）

場所：岡山大学医学部

世話人：岡山市立市民病院 小田和歌子先生

2. 第 16 回病理夏の学校

開催日：平成 27 年 8 月 23, 24 日（日、月）

場所：鳥根県松江市玉湯町玉造温泉 佳翠苑皆美

世話人：鳥根大学病態病理学 並河 徹教授

C. 県単位の研究会などの開催報告

1. 山陰病理集談会

日時：平成 27 年 4 月 10 日（土）

場所：鳥取大学医学部

世話人：鳥取大学附属病院 堀江 靖先生

参加人数：27 名

773 / 骨病変 / Plasma cell myeloma with crystal storing histiocytosis / 鳥取大学附属病院 / 桑本聡史

774 / 骨格筋病変 / Chronic GVHD-related myositis / 鳥取県立中央病院 / 大沼秀行

775 / 眼腫瘍 / Retinoblastoma / 岡山大学 / 伏見総一郎

776 / 肝臓腫瘍 / Carcinosarcoma / 鳥取大学 / 堀江聡

777 / 浜田医療センター / Metastatic adenocarcinoma / 長崎真琴

778 / 子宮腫瘍 / STUMP / 鳥根大学 / 小松貴義

779 / 卵管腫瘍 / Carcinosarcoma / 鳥取県立中央病院 / 徳安祐輔

780 / 卵巣腫瘍 / Seromucinous borderline tumor / 鳥取大学附属病院 / 野坂加苗

-- 九州・沖縄支部 -----

九州・沖縄支部編集委員 大石 善丈

第 344 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時：平成 27 年 3 月 14 日

場所：宮崎県立延岡病院

世話人：宮崎県立延岡病院 病理診断科部長 石原明

参加人数：72 名

発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名
座長：河野真司（原三信病院）

1. 川村和弘 / 大分大学診断病理 / 75 / 女性 / 耳下腺 / 左耳下腺腫瘍 / G-CSF producing dedifferentiated mucoepidermoid carcinoma / G-CSF producing dedifferentiated mucoepidermoid carcinoma / Mucoepidermoid carcinoma (MEC)

2. 後藤優子 / 鹿児島大学人体病理学 / 57 / 男性 / 縦隔 / 前縦隔腫瘍 / Thymoma, type B3 with myoid cells / Thymoma, type B3 with myoid cells / Thymoma, type A
座長：本田由美（熊本大学附属病院病理診断科）
3. 頼田顕辞 / 宮崎大学腫瘍再生病態学 / 51 / 男性 / 食道 / 食道腫瘍 / Esophageal gland duct hamartoma / Esophageal gland duct hamartoma / Hamartoma Adenoma
4. 松山篤二 / 産業医大1病理 / 87 / 女性 / 胃 / 胃ポリープ / Very well differentiated adenocarcinoma / Adenocarcinoma, gastric type / Adenocarcinoma, gastric type
座長：田中弘之（宮崎大学腫瘍再生病態学）
5. 矢吹 慶 / 産業医大1病理 / 79 / 女性 / 胃 / 胃癌 / Adenocarcinoma tub1 + Lanthanum deposition / Adenocarcinoma tub1 + Lanthanum deposition / Adenocarcinoma tub1 + Lanthanum deposition
6. 岩崎 健 / 九州大学形態機能病理 / 6か月 / 男性 / 膝 / 膝頭部病変 / Nesidioblastosis / Nesidioblastosis / Nesidioblastosis
座長：林 透（潤和会記念病院）
7. 松下能文 / 千鳥橋病院・病理科 / 77 / 女性 / 乳腺 / 乳腺リンパ節病変 / Sarcoidosis of the breast and lymph node with Propionibacterium acnes infec / Sarcoidosis of the breast and lymph node with Propionibacterium acnes infec / Granulomatous mastitis
8. 落合彰子・佐藤勇一郎 / 宮崎大学病理診断科 / 37 / 女性 / 子宮頸部 / 子宮頸部腫瘍 / Villoglandular adenocarcinoma with microinvasion and SMILE / Villoglandular adenocarcinoma with microinvasion and SMILE / Adenocarcinoma, villoglandular type
座長：頼田顕辞（宮崎大学腫瘍再生病態学）
9. 鳥尾義也 / 県立宮崎病院 / 64 / 女性 / 皮膚 / 皮下腫瘍 / Castleman's disease, solitary / Castleman's disease, solitary / Castleman's disease
座長：松山篤二（産業医大1病理）
10. 本田由美 / 熊本大学病理診断科 / 17 / 男性 / トルコ鞍 / トルコ鞍部腫瘍 / Mixed pituitary gangliocytoma - adenoma / Mixed pituitary gangliocytoma - adenoma / Pituitary adenoma
11. 小林広昌 / 福岡大学病理学 / 36 / 男性 / 脳 / 脳腫瘍 / Diffuse leptomeningeal melanocytic neoplasm, intermediate grade / Diffuse leptomeningeal melanocytic neoplasm, intermediate grade / Malignant melanoma

第345回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時：平成27年5月9日

場所：九州大学病院地区 九州大学百年講堂中ホール

世話人：九州大学大学院 形態機能病理 小田義直

参加人数：206名

発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名
座長：山元英崇（九大形態機能病理）

1. 内橋和芳 / 佐賀大病態病理 / 84 / 男性 / 口腔 / 硬口蓋腫瘍 / Sialadenoma papilliferum / Sialadenoma papilliferum / Ductal papilloma
2. 田口健一 / 九州がんセンター病理 / 79 / 男性 / 顎下腺 / 顎下腺腫瘍 / Sarcomatoid salivary duct carcinoma / Sarcomatoid salivary duct carcinoma / Carcinosarcoma

座長：田口健一（九州がんセンター病理）

3. 丸塚浩助 / 県立宮崎病院 / 60代 / 男性 / 胸腺 / 胸腺腫瘍 / Micronodular thymic carcinoma with lymphoid hyperplasia / Micronodular thymic carcinoma with lymphoid hyperplasia / Micronodular thymoma with lymphoid stroma
4. 野口紘嗣 / 産業医大2病理 / 78 / 女性 / 胸部 / 左胸部腫瘍 / Carcinoma with mesenchymal differentiation / Carcinoma with mesenchymal differentiation / Solitary fibrous tumor
5. 樋田知之 / 福岡大学病理学 / 70 / 男性 / 肺 / 右肺腫瘍 / Sclerosing pneumocytoma / Sclerosing pneumocytoma / Sclerosing hemangioma / pneumocytoma
座長：孝橋賢一（九大形態機能病理）
6. 田宮貞史 / 北九州市立医療センター / 13日 / 男性 / 回盲部 / 回盲部腫瘍 / Kaposiform hemangioendothelioma / Kaposiform hemangioendothelioma / Kaposiform hemangioendothelioma
7. 西山憲一 / 福岡赤十字病院 / 66 / 女性 / 膝 / 膝腫瘍 / Desmoid-type fibromatosis / Desmoid-type fibromatosis / Desmoid-type fibromatosis
座長：内橋和芳（佐賀大病態病理）
8. 河野真司 / 原三信病院 / 62 / 女性 / 腎 / 右腎腫瘍 / Renal oncocyoma / Renal oncocyoma / Renal oncocyoma
9. 阿部立朗 / 九大形態機能病理 / 37 / 男性 / 精巣 / 精巣腫瘍 / Large cell calcifying Sertoli cell tumor / Large cell calcifying Sertoli cell tumor / Large cell calcifying Sertoli cell tumor
10. 西田陽登 / 大分大学診断病理 / 40 / 女性 / 卵管 / 右卵管腫瘍 / Infarcted adenomatoid tumor / Infarcted adenomatoid tumor / Adenomatoid tumor
座長：西田陽登（大分大学診断病理）
11. 河野真司 / 原三信病院 / 64 / 男性 / 頭頂部 / 頭頂部皮下腫瘍 / Sea urchin granuloma / Sea urchin granuloma / Mycobacterium marinum infection
12. 田崎貴嗣 / 鹿児島大学病理学 / 5 / 男性 / 皮膚 / 皮膚病変

また同日に九州沖縄スライドコンファレンス世話人会と日本病理学会九州・沖縄支部総会が開催され、以下の報告と議題の承認がなされました。

九州沖縄スライドコンファレンス世話人会

日時：平成27年5月9日（土）

会場：九大病院地区 百年講堂中ホール I・II

出席者：世話人および会員 80名

1. 役員改選

（事務）

九州大学 山口祐佳 → 九州大学 林美由紀

2. 平成27年度の開催予定

2015年

345回5月9日（+世話人会）

九州大学大学院 形態機能病理：小田義直教授

346回7月4日（+第88回九州病理集談会）

地域医療機構九州病院 臨床病理検査科部長：笹栗毅和先生

347回 9月12日
 宮崎大学医学部 病理学構造機能病態分野：浅田祐士郎教授
 宮崎大学医学部 病理学講座腫瘍・再生病態学：片岡寛章教授
 泌尿器科との合同カンファレンス：男性泌尿生殖器（腎，膀胱尿管尿道，前立腺，精巣）
 臨床コメントーター：宮崎大学医学部 泌尿器科学 賀本敏行教授
 病理コメントーター：名古屋第二赤十字病院 病理診断科 都築豊徳先生

348回 11月28日
 公益財団法人慈愛会今村病院分院 病理診断科部長 二之宮謙次郎先生
 学術講演：「病理医のための神経病理 神経内科の立場から」
 講演者：高尾昌樹教授（埼玉医科大学国際医療センター 神経内科・脳卒中内科）

2016年

349回 1月30日
 製鉄記念八幡病院病理部長 下釜達郎先生
 学術講演：「副腎腫瘍の病理（仮題）」
 講演者：笹野公伸教授（東北大学大学院医学系研究科 病理形態学）

350回 3月5日
 産業医科大学医学部 第一病理：久岡正典教授
 産業医科大学医学部 第二病理：中山敏幸教授

351回 5月21日（+世話人会）
 九州大学大学院 形態機能病理：小田義直教授

3. 新規加盟期間，世話人交代
 （新規加盟機関）

熊本地域医療センター	世話人 蔵野良一
くまもと森都総合病院	世話人 有馬信之
JR九州病院	世話人 濱田哲夫
豊見城中央病院	世話人 喜友名正也
ハートライフ病院	世話人 戸田隆義
鹿児島大学 病理学分野	世話人 畑中一仁

嬉野医療センター	内藤慎二	→	田場 充
九州病院	中野龍治	→	笹栗毅和
九州医療センター	桃崎征也	→	河内茂人
九州労災病院	濱田哲夫	→	檜原康亮
熊本医療センター	成毛有紀	→	村山寿彦
高木病院	渡辺恵子	→	杉原 甫
医療法人 長崎病理	岸川正大	→	河合紀生子
那覇市立病院	新垣京子	→	喜舎場由香

福岡和白病院	中野盛夫	→	中野龍治
九州大学 口腔病理学	清島 保	→	和田裕子
宮崎大学 構造機能病態学	佐藤勇一郎	→	山下 篤
山口大学 分子病理学	河内茂人	→	小賀厚徳
琉球大学 細胞病理学	新垣克也	→	加留部謙之輔

日本病理学会九州・沖縄支部総会
 日時：平成27年5月9日（土）14:00-15:30
 会場：九州大学 病院地区百年講堂 中ホール I
 出席者：スライドカンファレンス会員 206名

1. 報告事項
 - 1) 第4回九州沖縄支部病理学校（第4回秋の病理学校 2014 in 九重）
 - 2) 各種委員会
 - 業務委員会
 - 若手病理医の会
 - 学術委員会
 - ホームページ委員会
 - 女性病理医支援窓口
 - TF委員会
 - 広報委員会
 - 3) スラコン予定表と九州沖縄支部スライドカンファレンス，コンサルテーション運用システム
 - 4) その他
 - (1) 新専門医制度等など
2. 議題
 - 1) 日本病理学会九州沖縄支部・役員交代（案）
 - 2) 平成26年度決算報告（案）
 - 3) 平成27年度予算（案）
 - 4) 第5回九州沖縄支部病理学校（第4回秋の病理学校 2015 in 湯布院）

=====
 病理専門医部会会報は，関連の各種業務委員会の報告，各支部の活動状況，その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので，日本病理学会事務局付で，E-mailなどで御投稿下さい。病理専門医部会会報編集委員会：村田哲也（委員長），望月 眞（副委員長），深澤雄一郎（北海道支部），長谷川剛（東北支部），九島巳樹（関東支部），浦野 誠（中部支部），桑江優子（近畿支部），串田吉生（中国四国支部），大石善丈（九州沖縄支部）
 =====

日本病理学会コンサルテーションシステム 謝辞

平成 26 年度日本病理学会コンサルテーションシステムにおきまして、ご尽力を賜りましたコンサルタントの先生方に心より感謝申し上げます。コンサルテーションをお引き受けくださった先生方を以下に記載させていただきます。

平成 27 年 6 月吉日
一般社団法人 日本病理学会
理事長 深山 正久

相島慎一	味岡洋一	秋山太	新井富生	新井栄一	今北正美	今村好章
井野元智恵	井下尚子	入江準二	石田剛	石川雄一	伊藤雅文	岩渕三哉
岩田純	泉美貴	植田初江	浦野誠	宇月美和	小幡博人	小田義直
大江知里	小川郁子	大林千穂	大倉康男	大島孝一	大内知之	尾島英知
岡輝明	長村義之	覚道健一	亀田典章	亀山香織	菅野祐幸	加藤良平
川本雅司	岸本宏志	清川貴子	黒田直人	黒住昌史	草深公秀	草間薫
九嶋亮治	小島勝	小森隆司	小西英一	定平吉都	桜井孝規	笹島ゆう子
佐々木恵子	佐々木惇	笹野公伸	澤井高志	鹿毛政義	渋谷和俊	澁谷誠
清水章	清水道生	新宅雅幸	塩見達志	白石泰三	城謙輔	菅井有
砂川恵伸	鈴木正章	鈴木博義	関邦彦	仙波伊知郎	園部宏	高橋啓
竹下盛重	竹内真	田丸淳一	田中祐吉	立山尚	土屋眞一	津田均
薦幸治	堤寛	都築豊徳	手島伸一	長尾俊孝	長坂徹郎	長嶋洋治
中峯寛和	中村眞一	中村栄男	中村直哉	中沼安二	中嶋安彬	名方保夫
中谷行雄	中山雅弘	二階堂孝	仁木利郎	西川俊郎	野口雅之	野島孝之
長谷川匡	平戸純子	廣川満良	廣瀬隆則	廣島健三	蛭田啓之	久岡正典
比島恒和	藤林真理子	福永真治	福岡順也	本間慶一	堀井理絵	増田しのぶ
松本俊治	松野吉宏	三上修治	三上芳喜	湊宏	三橋智子	宮本和人
村田晋一	森永正二郎	森谷鈴子	森谷卓也	元井亨	山鳥一郎	山口岳彦
柳澤昭夫	柳井広之	八尾隆史	安田政実	谷田部恭	横尾英明	横山繁生
吉田朗彦	吉川洋	吉野正	若狭研一	渡辺みか		

(敬称略)